



なんでやねん



発行責任者 倉橋 忠

No. 6

中間考査前に ここまでのGLTを振り返っておこう

あと1週間で、3年生になって初めての中間考査。これを機会に、社会科の授業で行ってきた、GLT (Group Learning Time) のテーマを振り返っておきましょう。

ここまでのGLTは、新しい学級で、なかなか議論が進まなかったという印象が強かったと思います。

ところで、教室は間違ってもいいところです。いいえ、間違うために君たちは教室にいます。新しいことに挑戦したら、うまくいなくて当たり前なんです。はじめっからうまくできるんだったら、その課題は君たちを鍛えるものではありません。いっぱい挑戦して、何度も失敗を繰り返してください。それが、君たちを強くし、君たちの学力を高くします。だまされたと思って取り組んでみてください。

社会の出来事で「答え」は、元々、一つではありません。他の人と意見が違って当たり前です。違う意見があるから議論が出来ます。議論で自分の考え方の完成度を高めることが大切です。普段、私たちが歩けるのは、左右の足が違う動きをしているから歩けるんです。そんなことに気がつきませんか。たとえば、右足を前に出そうとしているときは、左足は止まっています。互いに違うから、動く動作が出来ます。

互いに否定しあうのではなく、お互いの意見の意味を正しく理解し、立場の違いに気づくとき、私たちは、一歩前に出ることが出来ます(賢くなれるのです)。今後も、私(倉橋)はGLTに挑戦したいと思っています。君たちの奮起に期待します。

これまでのGLTの課題と議論

- (1) 「なんで? イギリスが、日本に領事裁判権の撤廃に応じたり、日英同盟を結ぶようなことをしたんだろう。」(2年生の学習内容の復習をしたときの課題)

【有 力な意見】◎ ロシアの南下政策に対抗するために、日本の軍事力を利用しようとした。

※ これが参考書などに書かれている「模範答案」。しかし、それだけでは説明しきれないのです。「領事裁判権の撤廃」の理由を説明しきれないからです。参考になるのは、「日本を軍需品を売る貿易相手に

して利益をあげることもねらいの一つにあった」という意見です。ちなみに、日清戦争や日露戦争で活躍した軍艦の大半は、イギリス製だったのです(日清戦争で得た賠償金で追加建造した戦艦もあった)。

- (2) 「第一次世界大戦の特徴を3行で説明してみよう。」(第一次世界大戦のおこりとようすを学習したときの課題)

【有力な意見】◎ 一国と一国の戦争ではなく、連合国側と同盟国側に分かれて戦うという、多くの国をまきこんだ世界的な戦争になった。戦車や毒ガスなどの新兵器が利用されて大きな被害が出た。

◎ 連合国側と同盟国側という多くの国が、世界中をまきこんだ戦争だった。戦車や飛行機、機関銃や毒ガスなどの新兵器を使った。総力戦になり青少年や女性も参加させられた。

※ この2つが、代表作品でした。一国どうしの戦争ではなく、複数の国が同盟関係を結び戦争したこと、新兵器を使用したこと、青少年や女性をまきこんだ総力戦であり、これまでにない大きな被害をもたらした戦争であったことなどに触れているといいでしょう。

- (3) 「第一次世界大戦のような戦争を防ぐ方法はあるのか？ これまでに学習したことや、自分の直感で考えてみよう。」(第一次世界大戦後の国際協調の高まりを学習したときの課題)

【有力な意見】◎ 植民地をなくせばいい。

◎ 「お金」をとるのをやめればいい。

◎ 武器を作るのをやめればいい。

※ この3つの意見が、代表的な意見でした。いずれの意見もキーワードを使っているとは言えない意見ですが、内容的には鋭い指摘をしています。君たちの「直感」の鋭さが光りました。

帝国主義国による植民地の奪い合いから第一次世界大戦がおきました。ソ連の主張や、ウィルソンの「十四か条の平和原則」にいう「民族自決」は、植民地をなくすための方法だったのです。

また、ソ連は「無賠償」を主張しました。戦勝国が敗戦国から「賠償金」をとる慣習が戦争の動機にもなっていたからです。

武器など戦争に必要な装備を軍備といいます。世界大戦を防ぐには軍備の縮小が課題でした。ワシントンで行われた海軍軍縮会議はその証でした(軍艦などの保有比率を国別に定めただけに終わりました)。